

# SSH&国際探究ニュース

## SSH & Global Education Reports

### 『知の探究I』が各講座に分かれて探究活動スタート!

1年生の『知の探究I』において探究活動が本格的にスタートしました。5月29日(金)の授業では、「問いの立て方と探究活動の進め方を理解すること」を目標に、実践的な3つのステップに挑戦しました。

最初のステップは「問いを立てる」活動です。生徒は教科書の記事を読み、多角的な観点から自ら問いを構築しました。問いを持つことで対象への理解が深まることを学び、5人のグループワークを通じて互いの多様な視点に触れ、視野を広げました。

次に、探究の質を左右する「マジックワードの定義」に取り組みました。マジックワードとは、イメージは湧くものの定義が曖昧で抽象的な言葉のことです。今回は「子どもにとって最適な環境」を題材に、個人で具体的な言葉への言い換えに挑んだ後、グループで白熱した意見交換を展開しました。言葉を具体化・再定義するプロセスを通じ、論理的思考の重要性を実感した様子でした。

最後は、今後の個人探究の土台となる「文献探索」です。前回作成したマインドマップから各自の興味関心に沿ったキーワードを抽出し、「国立国会図書館サーチ(NDLサーチ)」を活用して関連書籍を検索しました。生徒たちは自ら選んだキーワードを手にも、学校の図書館へ足を運んで熱心に文献を読み進めています。

時間が許す班からは代表的なアイデアが全体に発表され、クラス間で活発な共有が行われました。自ら問いを立て、言葉を研ぎ澄まし、文献にあたる——この一連のプロセスを通じて、グローバルな視点で現代社会の課題解決に挑む確かな探究の力を培っていくことを期待しています。



化学系の講座では基本的な化学実験操作を1年生に教えることを目的に、2年生が自分たちで実験内容を考えて実験講習会を実施しました。アントシアニンを抽出してpHの指示薬としてさまざまな液体の液性を確認する手法や、吸光度計を使って検量線を作成して濃度を定量する手法などを実践しました。



### 『探究アドバイザー制度もフル活用』

今年度は、本校の卒業生を中心とする大学生・大学院生11名が「探究アドバイザー」として授業に参加し、生徒たちの探究活動をサポートしてくれます!個人探究の問いを深めるアドバイスや、グループディスカッションのファシリテーションなど、身近な先輩ならではの視点で活動を力強く支えていただきます。

